

県下の主な活断層

I 活断層の概要

活断層とは、最近の地質時代に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層のことである。活断層の存在は、その活断層が繰り返しずれた跡が地形や地層に残されていることにより確認される。新しい時代に形成された地形や地層に比べて、古い時代に形成された地形や地層ほど大きくずれていれば、地震が多数起こり繰り返しずれを生じたと考えられ、今後も同じように繰り返し地震が発生すると考えられている。

II 県内各地域の特色

山間部では、断層の活動に伴う地震の影響を受け、山崩れや落石による被害を受けたり、震央や断層沿いでは、大規模な山崩れ・地すべりや土石流による壊滅的被害を受ける所が随所にあられて、孤立地帯を生じる可能性がある。

平野部では、山間部に比べ地震による被害が大きいと思われる。これは平野部の地盤が弱いためである。特に沖積層の厚く堆積した所の地盤は軟弱であり、大きな被害をうけるものと予想される。平野部のうち、羽島、大垣付近から下流の輪中地帯では、地盤が特に軟弱である。今日、岐阜、大垣、羽島などの平野部の諸都市では、住家や工場などの施設が濃尾地震や昭和の東南海地震のころとは比べものにならないほど密集し、集積している。これらの中には極めて軟弱な地盤でありながら、戦後、住宅や工場団地が建設された所が多々あり、地震災害の潜在的な被害主体が以前に比べ著しく増大しているといえる。

地域別の断層については、以下のとおり。

1 北部地域

岐阜県の北部地域に分布する活断層としては、牛首断層帯、跡津川断層帯、高山・大原断層帯が平行に走っており、それに直交するように、石川県から延びる庄川断層帯とそれと平行に長良川上流断層帯がある。

① 牛首断層

牛首（うしくび）断層帯は、飛騨高地の北部の富山県南部から岐阜県北部にかけて分布する活断層帯である。富山県旧上新川郡大山町（現・富山市）から、飛騨市、富山県南砺市を経て、大野郡白川村に至る。長さは約54kmで、ほぼ北東-南西方向に延びており、右横ずれを主体とする。

② 跡津川断層

跡津川（あとつがわ）断層帯は、飛騨高地の北部の富山県南部から岐阜県北部にかけて分布する活断層帯である。富山県中新川郡立山町から同県旧上新川郡大山町（現・富山市）、飛騨市を経て大野郡白川村に至る。全体の長さは約69kmで、ほぼ東北東-西南西方向に延びている。右横ずれを主体とする断層帯で、北西側隆起成分を伴う。

③ 高山・大原断層帯

高山・大原（たかやま・おっぱら）断層帯は、飛騨山地に分布する活断層帯である。高山市及びその周辺の市に分布する断層帯で、ほぼ北東-南西方向に並走する多数の断層からなっており、その分布範囲は概ね40km四方に及んでいる。本断層帯は複数の断層帯に細分されるが、主なものとしては、高山市国府町から高山市荘川町に至る長さ約27km、幅約4-5kmの国府断層帯、高山市から郡上市明宝地域に至る長さ約48km、最大幅約4kmの高山断層帯、及び高山市高根町から下呂市小坂地域に至る長さ約24kmの猪之鼻断層帯がある。これらの断層帯はいずれも右横ずれが卓越する断層からなる。

④ 庄川断層帯

庄川（しょうかわ）断層帯は、両白山地と飛騨高地の境界付近に位置する活断層帯である。石川県金沢市東部から、富山県旧西砺波郡福光町（現・南砺市）、大野郡白川村、高山市荘川町を経て県郡上市北部に至る。全体の長さは約67kmで、ほぼ北北西-南南東に延びている。左横ずれを主体とし、加須良断層では東側隆起成分、白川断層と三尾河断層では西側隆起成分を伴う。

⑤ 長良川上流断層帯

長良川上流（ながらがわじょうりゅう）断層帯は、美濃三河高原の北部、長良川上流域に位置する活断層帯である。郡上市に分布する断層帯で、八幡（はちまん）断層、二日町断層、那留断層及び大野断層から構成される。長さは約29kmで、北北西-南南東方向に延びている。左横ずれ、かつ西側隆起の断層帯である。

2 東部～南東部地域

岐阜県の東部地域～南東部に分布する活断層としては、長野県との県境付近に木曾山脈西縁断層帯とその延長上にある屏風山・恵那山及び猿投山断層帯、さらにそれに平行するように阿寺断層帯がある。

① 木曾山脈西縁断層帯

木曾山脈西縁断層帯は、長野県中西部から岐阜県東部にかけて分布する活断層帯である。木曾山脈西縁断層帯主部と清内路峠断層帯からなる。木曾山脈西縁断層帯主部は、木曾山脈西縁に沿って長野県木曾郡旧日義村（現・木曾町）から、上松町、大桑村、南木曾町を経て、岐阜県中津川市東部に至る。長さは約46kmで、北北東-南南西方向に延びている。

本断層帯は過去の活動時期から、旧日義村（現・木曾町）から南木曾町に延びる北部と、南木曾町から岐阜県中津川市に至る南部の2つの区間に区分される。南部は、右横ずれ主体の断層と推定される。

② 屏風山・恵那山及び猿投山断層帯

屏風山（びょうぶやま）・恵那山（えなさん）断層帯及び猿投山（さなげやま）断層帯は、恵那山地、三河高原と美濃山地との境界から、岡崎平野・知多半島に至る活断層帯である。屏風山断層帯、赤河（あこう）断層帯、恵那山-猿投山北断層帯、猿投-高浜断層帯及び「加木屋断層帯」に区分される。

屏風山断層帯は、中津川市から恵那市に至る。長さは約15kmで、東北東-西南西方向に延び、断層の南東側が北西側に対して相対的に隆起する逆断層である。

赤河断層帯は、加茂郡白川町から恵那市に至る。長さは約23kmで、北西-南東方向に延びている。断層の南西側が北東側に対して相対的に隆起する断層が主体である。

恵那山-猿投山北断層帯は、中津川市から瑞浪市を経て、愛知県豊田市北西部に至る。全体の長さは約51kmで、北東-南西方向に延びている。断層帯の東半部は断層の南東側が北西側に対して相対的に隆起する逆断層を主体とし、一部右横ずれ成分を伴う。断層帯の西半部は右横ずれを主体とする断層であり、一部上下成分を伴う。

③ 阿寺断層帯

阿寺（あてら）断層帯は、阿寺山地と美濃高原の境界に位置する活断層帯であり、阿寺断層帯主部、佐見断層帯及び白川断層帯からなる。

阿寺断層帯主部は下呂市から中津川市加子母を経て、中津川市北東部に至る。全体の長さは約66kmで、概ね北西-南東方向に延びている。本断層帯は過去の活動時期から、下呂市の北部に南北に位置する北部と、郡上市から中津川市北東部にかけて、北西-南東方向に延びる南部に区分される。いずれも左横ずれが卓越

する断層からなり、東側隆起成分を伴う。

佐見断層帯は、中津川市加子母から、加茂郡白川町を経て、七宗町に至る。長さは約2.5 kmで、概ね東北東-西南西方向に延びており、右横ずれが卓越する断層からなる。また、室山断層や鳥屋峠断層などの左横ずれを示す副次的な断層を伴う。

白川断層帯は、中津川市加子母から、加茂郡東白川村、白川町を経て七宗町に至る断層帯である。長さは約3.1 kmで、概ね東北東-西南西方向に延びている。本断層帯は、右横ずれが卓越する断層からなり、南東側隆起成分を伴う。また、東白川断層などの左横ずれを示す副次的な断層を伴う。

阿寺（あてら）断層は、岐阜県南東端の中津川市北東部から北西へ向かって、下呂市を経て、下呂市へ至る全長約70kmにも及ぶ大断層で、日本における第一級の左横ずれ断層として知られている。この断層は、旧坂下町における木曾川の河岸段丘面の段差をはじめとして、断層露頭、低断層崖、鞍部の連続などの断層地形が各所に見られる。

3 西部～南西部地域

岐阜県の西部～南西部に分布する活断層としては、地震断層として世界的に知られた根尾谷断層帯のほか、その西部には柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯、その延長上に養老-桑名-四日市断層帯、鈴鹿東縁断層帯がある。

① 根尾谷断層

濃尾（のうび）断層帯は、両白山地から濃尾平野北方にかけて位置する活断層帯である。温見（ぬくみ）断層、濃尾断層帯主部、揖斐川（いびがわ）断層帯、武儀川（むぎがわ）断層からなり、これらの断層帯はいずれも概ね北西-南東方向に延びている。

温見断層は、福井県今立郡池田町から大野市南部を経て本巣市北部に至り、長さは約3.6 km。本断層は過去の活動時期の違いから、福井県今立郡池田町から大野市南部に至る北西部と、大野市南部から本巣市北部に至る南東部に区分される。左横ずれを主体とし、北西部では北東側隆起成分、南東部では南西側隆起成分を伴う。

濃尾断層帯主部は、福井県大野市南部から、本巣市、岐阜市北部、山県市南部、関市を経て、美濃加茂市と加茂郡坂祝町の境界付近に至り、長さは約5.5 km。本断層帯は、過去の活動時期の違いにより、大野市南部から岐阜市北西部に至る根尾谷断層帯、本巣市から美濃加茂市、坂祝町境界に至る梅原断層帯、岐阜市北部に分布する三田洞（みたほら）断層帯に区分される。根尾谷断層帯は、左横ずれを主体とする断層からなる。梅原断層帯は左横ずれを主体とする断層からなり、北西部の一部では北東側隆起成分、南東部では南西側隆起成分を伴う。また、三田洞断層帯は左横ずれを主体とする断層からなり、南西側隆起成分を伴う。

揖斐川断層帯は、揖斐川町旧藤橋村から本巣市に至り、長さは約2.4 km。左横ずれを主体とする断層からなり、南東部では南西側隆起成分を伴う。

武儀川断層は、本巣市から山県市を経て関市武芸川町に至り、長さは約2.9 km。左横ずれを主体とし、南東部では北東側隆起成分を伴う。

明治24年に起きた濃尾地震は、日本内陸部における有史以来最大の地震であるが、これは根尾谷断層の活断層の活動により発生した地震である。

② 柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯

柳ヶ瀬（やながせ）・関ヶ原（せきがはら）断層帯は、丹生（にゅう）山地西方の日本海沿岸から琵琶湖東岸を経て伊吹山地南縁に至る活断層帯である。日本海沿岸の福井県福井市鮎川から丹生郡旧越廼村（現・福井市）越前岬沖の若狭湾東縁を通り、滋賀県伊香郡木之本町を経て、不破郡垂井町に至る柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部と、福井県敦賀市の立石岬付近から敦賀湾を横切り、滋賀県伊香郡余呉町に至る「浦底（うらぞこ）-柳ヶ瀬山（やながせやま）断層帯」からなる。

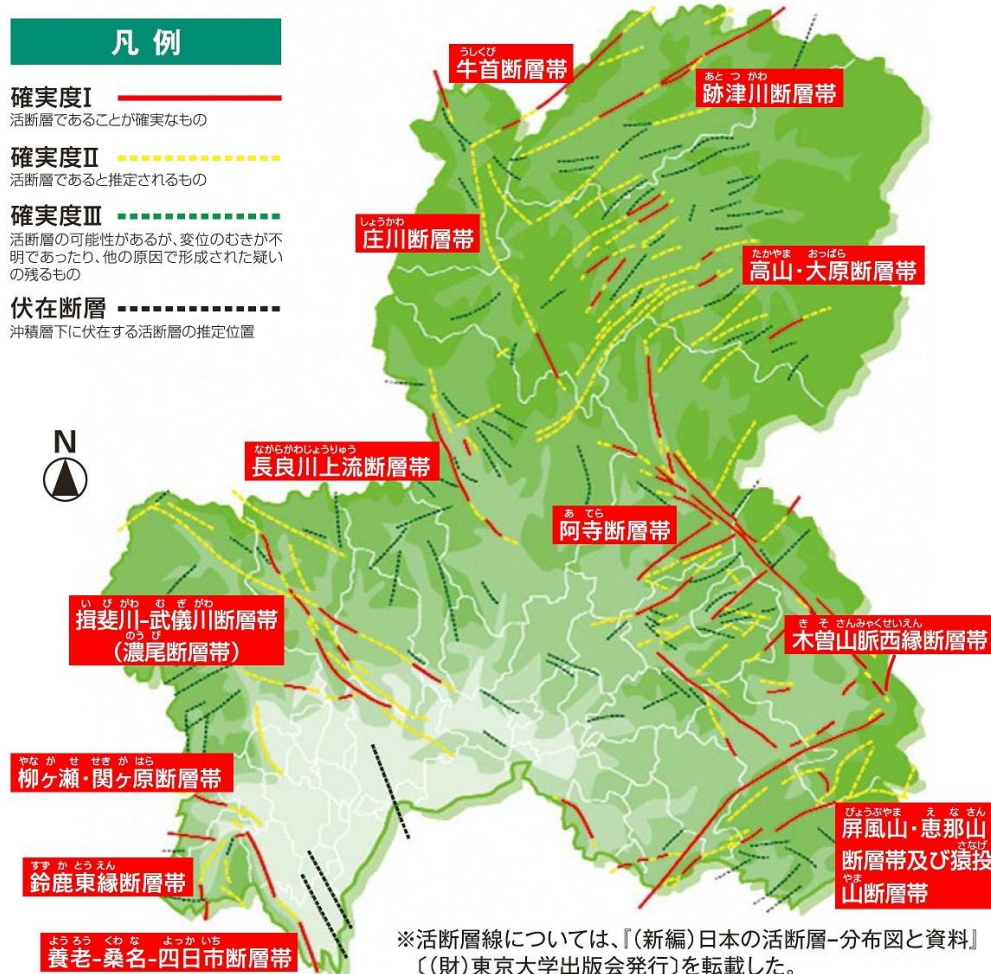
柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部は、全体の長さは約100kmで、屈曲点を境に北部では北北東-南南西方向、南部では北西-南東方向に延びている。本断層帯は過去の活動時期から、断層帯北端の福井県福井市鮎川から山中峠南東付近までの北部、山中峠南東付近から椿坂峠付近までの中部、及び椿坂峠から断層帯南端の不破郡垂井町に至る南部の3つの区間に細分される。南部は左横ずれを主体とし、一部、断層の北東ないし東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層からなる。

③ 養老-桑名-四日市断層帯

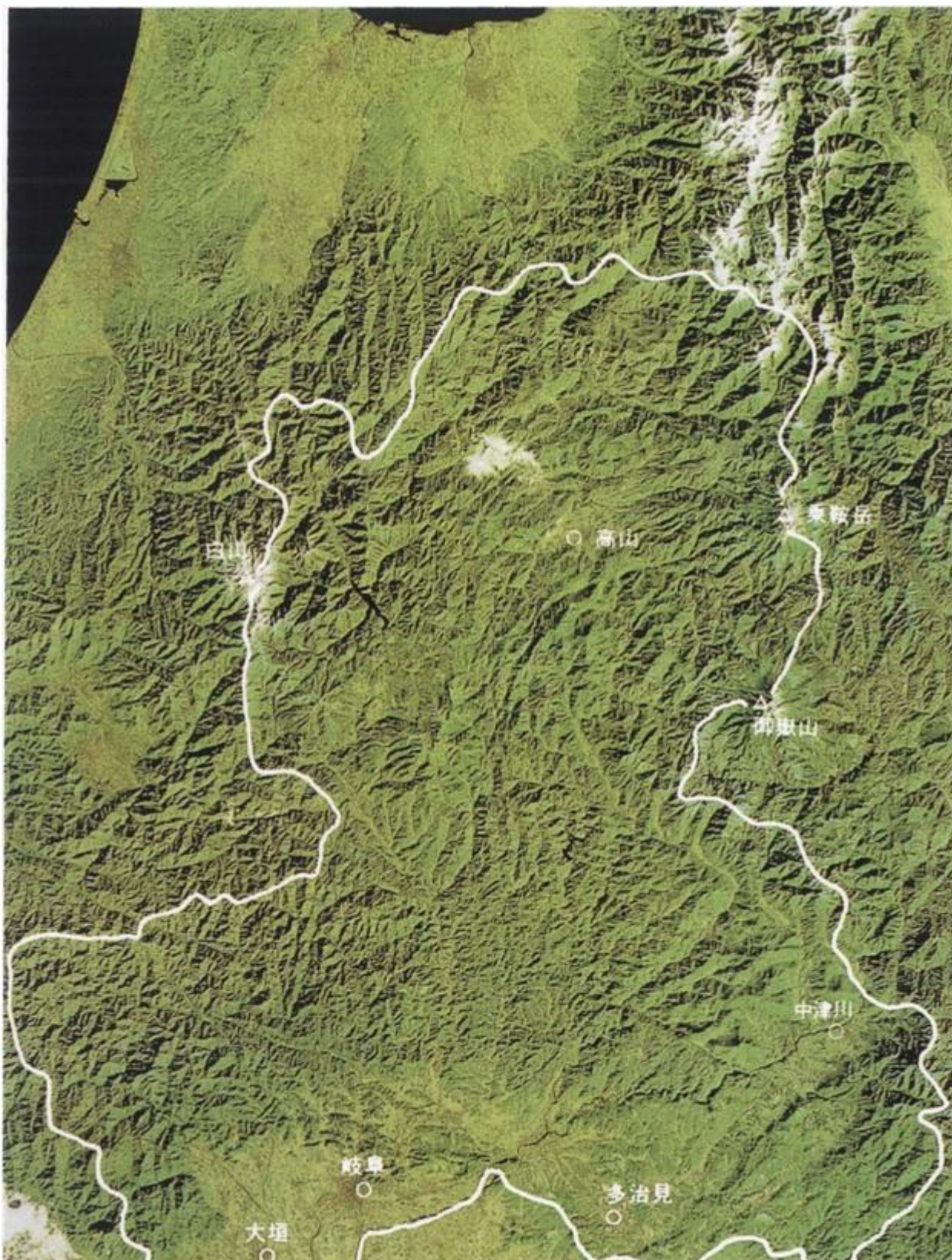
養老-桑名-四日市断層帯は、養老山地の東縁に発達する活断層帯である。不破郡垂井町から三重県桑名市を経て四日市市まで、ほぼ養老山地と濃尾平野の境界及び養老山地の南に続く丘陵地の東縁に沿って延び、長さは約60km。宮代断層、養老・桑名断層及び四日市断層と、これらに付随する断層から構成され、断層の西側が東側に乗り上げる逆断層である。横ずれ成分は認められていない。

④ 鈴鹿東縁層帯

鈴鹿東縁断層帯は、鈴鹿山脈東麓地域に分布する活断層帯である。大垣市上石津町から三重県いなべ市、三重郡菰野町、四日市市、鈴鹿市を経て、亀山市に至る。全体の長さは約34-47kmで、西側が東側に対し相対的に隆起する逆断層である。当断層帯は、鈴鹿山脈とその東側の丘陵との地形境界付近に分布する「境界断層」と、三重県内の北半部において境界断層と平行にその東側の丘陵東縁や段丘発達地域内に分布する「前縁断層」、及び両者の間にあるいくつかの短い断層によって構成されている。



岐阜県の活断層図



ランドサットから撮影した岐阜県地域（主要な活断層の線状の模様（リニアメント）がよくわかる）